

シクロデキストリン

CD技術の応用加速

ライフ・環境・化学に照準

シクロケムは、機能性糖質シクロデキストリン(CD)の技術を軸にして新たな用途研究と製品開発力を強化する。神戸市中央区のポートアイランド(第2期)に新社屋を兼ねた研究開発施設が完成し、CDに特化したラボ機能と規模の拡充を図った。アンチエイジングに役立つ化合物の素材化などライフサイエンスから環境、化学まで幅広い分野をカバーする研究開発プロジェクトを立ち上げ実用化を目指す。

新研究拠点テコに

シクロケムが対象とするのは、優れた機能性が発見されたにもかかわらず、安定性や味・風味など実用化に必要な要件を満たさず素材として使えなかった化合物。CDに

よる包接技術などを駆使し、市場競争力のある素材にする。水溶性の付与や体内への吸収性改善、抗酸化力向上などライフサイエンス、環境、化学分野で15

以上のプロジェクトが進んでいる。還元型ケルセチン、トランス脂肪酸の低減、機能性樹脂開発のための低温解離型プロセスなど、

ペースが拡大した新しい研究開発施設に最新鋭機器を導入したことで開発スピードの向上が期待できる。同社グループが総力を挙げて取り組む機能性成



完成した神戸新社屋と研究開発施設

分を含むニュージーンランド産ハチミツのマヌカハニービジネスの一環として展開するサプリメントにCD技術を活用。引き続き技術進化に力を注ぐ。

新拠点の社屋と研究開発施設は、2015年までにポートアイランド(第2期)の理化学研究所計算科学研究機構がある隣接地(約2790平方メートル)を取得し、昨年からは4階建ての建屋の建設を進めてきた。投資額は約8億円。これまで神戸国際ビジネスセンター内に置いていた神戸本社と研究ラボの新拠点への移転がこのほど完了した。

神戸市立医療センターや先端医療センター、神戸大学といった最先端機関、バイオ企業のラボが至近距離にあるライフサイエンス関連研究施設の集積地であるため、CDの機能性の検証などにかかわる産管学、産産による連携やコラボレーションにつながる可能性も高い。

新社屋落成記念パーティー開催

シクロケムは15日、かげさまで当社グループの業績は伸長していただいに完成させた新社屋と研究開発施設の「落成記念パーティー」を開催した。当日は顧客、取引先から約150人が出席、社屋と研究所の内覧会も行われ、盛大な宴となった。

冒頭、シクロケムの寺尾啓二社長が「当社を設立して14年。いろいろと良い人に恵まれて、やってこれた。おかげさまで当社グループの業績は伸長していただいに完成させた新社屋と研究開発施設の「落成記念パーティー」を大変うれしく思う。これからのご支援、ご鞭撻の程、よろしくお願ひします」とあいさつ。また来賓としてニュージーンランドのマヌカハルスの創業者で前CEO(最高経営責任者)であるケリー・ポール氏をはじめ、マヌカハルス・ニュージーンランド・アジアのロバート・シューマン市場担当マネージャー、神戸市の企業誘致担当者、金融関係者らが祝辞を述べた。純正化学の矢野徳男氏の乾杯の音頭で和やかな歓談に移った。



あいさつする寺尾社長